

子どもの愛着対象に関する両親の認知

大瀧 ミドリ, 中塚 綾子*

(上越教育大学学校教育学部, * 大分大学教育学部)

平成5年8月3日受理

Parents' Recognition of Their Children's Attachment Object

Midori OTAKI and Ayako NAKATUKA*

Faculty of School Education, Joetsu University of Education, Joetsu, Niigata 943

** Faculty of Education, Oita University, Oita 870-11*

There were 2 purposes for this study. One of them was to find out the difference between the fathers' recognition of their children's attachment object and the mother's, and the other was to study the factors which influence the parents' recognition of their children's attachment object. The subjects were 665 pairs of parents who had a child or children going to nursery schools. The survey was carried out in 14 different everyday situations. The results were as follows:

- 1) Both the fathers and the mothers think that their children consider the mothers more largely as attachment objects than the fathers.
- 2) The fathers think that they are more important for their children as the attachment objects than the mothers think the fathers are, and vice versa.
- 3) It was found that their children's genders and ages as well as their wives' occupations have a very strong influence over the fathers' recognition.
- 4) It was found that their children's ages and their own occupations have a great influence over the mothers' recognition while their children's genders and mother-child contact time have a moderate influence.

(Received August 3, 1993)

Keywords: attachment object 愛着対象, father 父親, mother 母親, recognition 認知, factor 要因。

1. 緒 言

人が人との間に結ぶ情愛的な関係を意味する愛着は、人が種として生き延びるために遺伝的に繰り込まれている機能と考えられている¹⁾。しかし、子どもが誰を愛着対象とするかに関しては、特定の個人（多くの場合母親を意味する）から発達的に愛着対象が拡大していくという考え方¹⁾と子どもは発達初期から複数の愛着対象をもつことが可能であり、子どもの愛着対象は母親である必然性はないという考え方²⁾がある。前者の立場では子どもの愛着対象として母親の存在が強調され、母親だけに子育ての責任が背負わされる状況が発生しやすい。また、後者の立場では子育てを複数の

人々で共有することが可能となり、私的および社会的レベルにおける子育ての共有化の道も開けてくる。母親の就労が当たり前化している現在、子どもが誰に愛着を形成しながら成長していくかを明らかにする意義は大きい。また、生涯発達心理学から愛着は、発達初期に限定される問題ではなく、人間のすべての年齢段階において「適応を支える機能」として重要であることが指摘されている³⁾。本研究においても愛着の問題は発達初期だけの問題ではないという視点から0~6歳の保育園児をもつ父親と母親を対象として、子どもの愛着対象に関する父親と母親の認知の実態を明らかにする。さらに、父親と母親の認知に影響を与える要

表 1. 対象者の年齢・家族構成・母親の就業形態

	年 齡 分 布				N (%)
	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50 歳以上	
父 親 (665)	91 (13.7)	438 (65.9)	132 (19.8)	4 (0.6)	
母 親 (665)	128 (19.2)	491 (73.8)	46 (6.9)	0 (0.0)	
	2 歳以下	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳
子ども (665)	54 (8.1)	132 (19.8)	188 (28.3)	180 (27.1)	115 (17.3)
	平 均 年 齡		家 族 形 態		N (%)
父 親	35.7 歳 (23 歳~50 歳)		拡大家族	核 家 族	計
母 親	33.2 歳 (20 歳~46 歳)		374	282	656*
子ども	4.7 歳 (10 か月~6 歳 8 か月)		(57.0)	(43.0)	
	母 親 の 就 業 形 態				
	フルタイム	パートタイム	内 職	自 営	無 職
	222	180	75	40	102
	(35.9)	(29.1)	(12.1)	(6.5)	(16.5)
* 無記入は除く。					

因を明らかにし、子育てを共有化するための道を探る。

2. 方 法

(1) 調査対象

調査対象は、保育園児をもつ 665 組の父親と母親であり、詳細は表 1 の通りである。

(2) 調査項目と手続き

子どもが誰に愛情や精神的支援を求め、誰と楽しさや喜びを分かち合いたいと望んでいると父親と母親が認知しているかを明らかにするために、表 2 に示した状況における子どもの愛着対象について回答を求める。愛着対象として「父親、母親、父親と母親、父母以外の家族、家族以外の人や子」の選択肢を設定する。教示は「この調査用紙を持ち帰られたお子さんが、つぎのような状況のとき一番頼りにされたり、一番相手になつてもらいたがられるのは、どなたでしょうか。該当するところに○印をつけてください。」とし、調査用紙を持ち帰った子どもの現在の愛着対象に関する父親と母親の認知について問う。ただし、「後追い」については調査時点での行動が消失しているが、過去に表出していた子どもの場合は、その時点での愛着対象について回答を求める。なお、愛着場面の設定に当たっては比較的多くの子どもが日常生活において体験し、かつ、子どもが体験するストレスや愛着の強度が

表 2. 愛着対象に関する調査項目

- 1 風呂に入る
- 2 本を読んでもらう
- 3 一緒に出掛ける
- 4 病気のとき
- 5 抱っこなど身体的接触をせがむとき
- 6 かなしくて泣いているとき
- 7 思い通りにならず、イライラしているとき
- 8 何か自慢するとき
- 9 自分の要求をかなえてもらうとき
- 10 退屈なとき
- 11 眠るとき
- 12 後追いをする相手（または後追いをした人）
- 13 活動的な遊びの相手
- 14 その他の遊びの相手

異なるように配慮する。

子どもの愛着対象に関する父親と母親の認知に影響する要因として、子どもの性・子どもの年齢・親の年齢・家族形態・母親の就業形態、平日と休日における子どもとの接觸時間について調査する。

(3) 調査期間

平成 4 年 8 月~9 月。

子どもの愛着対象に関する両親の認知

(4) 調査方法

保育園児を介して調査用紙を各家庭に配布し、保育園に提出を依頼する。回収率は父親 83%，母親 90% である。

(5) 分析

子どもの愛着対象に関する父親と母親の認知に影響を与える要因を明らかにするために、14 場面のそれにおける親の認知（自分自身を愛着対象と考えている親と、自分以外の人を愛着対象と考えている親）を外的基準とし、子どもの性・子どもの年齢・親の年齢・子どもとの接觸時間・家族形態・母親の就業形態を説明変数とし、数量化II類により分析する。

3. 結果および考察

(1) 子どもの愛着対象に関する父親と母親の認知

子どもの愛着対象に関する父親と母親の認知について見たのが、表 3 である。

まず、父親の認知について見ると、「病気」「身体接觸」「後追い」「泣く」「眠る」「いらっしゃる」「要求」「外出」「本を読んでもらう」「その他の遊び」の 10 場面で、子どもは他の人より有意に母親を愛着対象にしていると認知している。前 7 場面は、子どもにとってストレスが比較的強い場面であり、このような状況では子どもは母親を愛着対象にしやすいことを示している。また、「風呂」「活動的遊び」の場面では、子どもは他の人より有意に父親を愛着対象にしていると認知している。日常生活でも「風呂」と「活動的遊び」への父親の参加率は高く、特に、「風呂」は父親が最も多く参加している子育て行為である⁴⁾。このことから父親自身が子育て行為に多く参加している場面では、父親を子どもの愛着対象と認知する傾向が窺われる。さらに、「自慢」「退屈」の場面では、子どもが父親と母親のそれぞれを愛着対象とする比率に有意差はない。このことから喜びの共有者や状況からの脱却の援助者として子どもが愛着対象を求めるような（子どもにとってストレスがあまり強くない）状況では、子どもの愛着対象は特定の誰かに集中する傾向は見られない。

母親の場合は「病気」「身体接觸」「後追い」「泣く」「眠る」「風呂」「いらっしゃる」「本を読んでもらう」「要求」「自慢」「退屈」「外出」の 12 場面で、子どもは他の人より母親を有意に多く愛着対象にしていると認知している。また、「活動的遊び」では、父親を有意に多く愛着対象にしていると認知している。さらに、「その他の遊び」では、母親と父母以外の家族を愛着

対象にしているものが多く、両者に有意差はない。

父親と母親のそれぞれの認知の特徴を見た場合、9 場面で父親も母親も子どもは他の人よりも母親を愛着対象としていると認知しており、その類似度は 64.3 % と比較的高い。しかし、父親と母親の認知に関するカイ 2 乗検定の結果では、表 3 に示すように 10 場面で有意差が見られる。表中の比率からこの差異は、父親も母親も互いにパートナーが考える以上に、自分は子どもの愛着対象になっていると認知していることに起因している。

表 3 の一致度は、場面別に各愛着対象について両親である父親と母親の認知が一致した総計を対象数 N で除して算出したものである。最も高い一致率は「病気」の 88.7 % であり、ついで「泣く」「眠る」となっている。最も低い一致率は「その他の遊び」の 27.3 % であり、ついで「退屈」「活動的遊び」と続いている。平均一致率は 50.5 % であり、先に見た類似度 (64.3 %) よりも低い。この原因是、先に指摘した親の思い入れの差にあるものと考えられる。子どもにとってストレスが比較的強い場面で、愛着対象が母親に集中することから子どもの愛着対象は、ストレスの強度により構造化されている可能性が示唆される。

以上の結果から子育ての共有化について次のことが指摘される。

具体的な子育て場面への父親の参加の多少が、父親が愛着対象となることに大きく関わる可能性が示唆されることから、父親が子どもと多彩な生活場面を共有し、子どもと情愛的な関係を結ぶための時間を社会的および家庭的に父親に保障することの意味は大きい。さらに、子育ての知識・技術に関する情報は母親に集中する社会機構になっている⁵⁾が、このような情報が父親にも保障するための見直しも必要となろう。

(2) 父親と母親の認知に影響する要因

数量化II類の結果、各愛着場面でレンジ値が比較的大きい変数を表示したのが表 4 (父親) と表 5 (母親) である。これらの変数は、子どもの愛着対象に関する親の認知に比較的大きな影響を与える要因である。

「子どもの性」が、父親の認知に影響する場面は 8 場面ある。「身体接觸」以外の 7 場面では、男児の愛着対象は父親であり、女児の愛着対象は父親以外の人である傾向があり、子どもの性の違いが父親の認知に大きな影響を与えている。しかし、「身体接觸」の場面ではその影響は逆になっている。「子どもの年齢」は、7 場面で 2 歳以下の子どもをもつ父親の認知に大

表 3. 子どもの愛着対象に関する父親と母親の認知の一致率

N (%)

場面	父母の認知	愛着対象					<i>p</i>
		母親	父親	父母共	父母以外の家族	家族以外の人・子	
病気 (N=664)	父親の認知	620(93.4)	28(4.2)	8(1.2)	8(1.2)	0(0.0)	ns
	母親の認知	629(94.7)	14(2.1)	9(1.4)	12(1.8)	0(0.0)	
	一致率 589(88.7)	588(88.6)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.2)	0(0.0)	
身体接触 (N=663)	父親の認知	409(61.7)	221(33.3)	23(3.5)	10(1.5)	0(0.0)	***
	母親の認知	553(83.4)	73(11.0)	27(4.1)	10(1.5)	0(0.0)	
	一致率 364(54.9)	339(51.1)	23(3.5)	2(0.3)	0(0.0)	0(0.0)	
後追い (N=624)	父親の認知	442(70.9)	132(21.2)	17(2.7)	31(5.0)	2(0.3)	***
	母親の認知	488(78.3)	71(11.4)	19(3.0)	41(6.6)	5(0.8)	
	一致率 368(59.0)	350(56.1)	15(2.4)	1(0.2)	2(0.3)	0(0.0)	
泣く (N=662)	父親の認知	552(83.4)	74(11.2)	8(1.2)	28(4.2)	0(0.0)	***
	母親の認知	613(92.6)	19(2.9)	9(1.4)	21(3.2)	0(0.0)	
	一致率 520(78.5)	514(77.6)	4(0.6)	0(0.0)	2(0.3)	0(0.0)	
眠る (N=657)	父親の認知	529(80.5)	83(12.6)	12(1.8)	32(4.8)	1(0.2)	ns
	母親の認知	545(83.0)	54(8.2)	14(2.1)	40(6.1)	4(0.6)	
	一致率 439(66.8)	432(65.8)	7(1.1)	1(0.2)	3(0.5)	0(0.0)	
風呂 (N=657)	父親の認知	279(42.5)	318(48.4)	16(2.4)	42(6.3)	2(0.3)	***
	母親の認知	361(54.9)	222(33.8)	23(3.5)	49(7.5)	2(0.3)	
	一致率 286(43.5)	168(25.6)	113(17.3)	0(0.0)	5(0.8)	0(0.0)	
いらっしゃり (N=656)	父親の認知	464(70.7)	110(16.8)	8(1.2)	73(11.1)	1(0.2)	***
	母親の認知	521(79.4)	57(8.7)	11(1.7)	65(9.9)	2(0.3)	
	一致率 393(59.9)	374(57.0)	8(1.2)	0(0.0)	11(1.7)	0(0.0)	
要求 (N=654)	父親の認知	312(47.7)	274(37.8)	28(4.3)	67(10.2)	0(0.0)	***
	母親の認知	404(61.8)	143(21.9)	27(4.1)	76(11.6)	4(0.6)	
	一致率 263(40.2)	197(30.1)	58(8.9)	2(0.3)	6(0.9)	0(0.0)	
自慢 (N=654)	父親の認知	303(46.3)	270(41.3)	43(6.6)	33(5.0)	5(0.8)	***
	母親の認知	417(63.8)	116(17.7)	45(6.9)	66(10.1)	10(1.5)	
	一致率 256(39.1)	190(29.1)	55(8.4)	3(0.5)	2(0.3)	0(0.0)	
退屈 (N=646)	父親の認知	265(41.0)	249(38.5)	24(3.7)	87(13.5)	21(3.2)	***
	母親の認知	305(47.2)	142(22.0)	19(2.9)	142(22.0)	38(5.9)	
	一致率 209(32.4)	122(18.9)	62(9.6)	0(0.0)	24(3.7)	1(0.2)	
外出 (N=659)	父親の認知	359(54.5)	247(37.5)	40(6.1)	11(1.7)	2(0.3)	***
	母親の認知	441(66.9)	150(22.8)	54(8.2)	13(2.0)	1(0.2)	
	一致率 310(47.0)	246(37.3)	59(9.0)	4(0.6)	1(0.2)	0(0.0)	
本 (N=662)	父親の認知	495(74.8)	115(17.4)	11(1.7)	41(6.2)	0(0.0)	***
	母親の認知	518(78.2)	77(11.6)	16(2.4)	47(7.1)	4(0.6)	
	一致率 414(62.5)	394(59.5)	17(2.6)	0(0.0)	3(0.5)	0(0.0)	
活動的遊び (N=661)	父親の認知	79(12.0)	373(56.4)	12(1.8)	121(18.3)	76(11.5)	ns
	母親の認知	77(11.6)	339(51.3)	10(1.5)	146(22.1)	89(13.5)	
	一致率 247(37.4)	7(1.1)	200(30.3)	0(0.0)	31(4.7)	9(1.4)	
その他の遊び (N=648)	父親の認知	210(32.4)	141(21.8)	20(3.1)	172(26.5)	105(16.2)	ns
	母親の認知	212(32.7)	97(15.0)	17(2.6)	196(30.2)	126(19.4)	
	一致率 177(27.3)	70(10.8)	24(3.7)	0(0.0)	61(9.4)	22(3.4)	

*** *p* < 0.001.

子どもの愛着対象に関する両親の認知

表 4. 父親の認知に影響する要因

場面	要因・カテゴリー	対象数	ウェイト	レンジ	偏相関 係数	場面	要因・カテゴリー	対象数	ウェイト	レンジ	偏相関 係数
病気	子どもの年齢					要 求	母親の就業形態				
	2歳以下	44	-1.423(no-F)	1.910	0.081		フルタイム	174	-0.224(F)	1.575	0.082
	3・4歳	239	0.487(F)				パート	144	0.064(no-F)		
	5・6歳	218	-0.247(no-F)				内職・自営	95	-0.583(F)		
	休日の接触量						無職	86	0.992(no-F)		
	多い	197	-0.785(no-F)	1.294	0.085	自 慢	性				
	少ない	304	0.509(F)				男児	265	0.584(F)	1.250	0.142**
	母親の就業形態						女児	232	-0.667(no-F)		
	フルタイム	173	-0.151(no-F)	1.638	0.081		子どもの年齢				
	パート	145	0.411(F)				2歳以下	44	-1.227(no-F)	1.546	0.097*
	内職・自営	97	-0.953(no-F)				3・4歳	237	-0.063(no-F)		
	無職	86	0.685(F)				5・6歳	216	0.319(F)		
身体接觸	性					母 母	母親の就業形態				
	男児	266	0.567(no-F)	1.213	0.092*		フルタイム	173	-0.576(F)	1.265	0.106*
	女児	234	-0.645(F)				パート	144	0.001(no-F)		
	母親の就業形態						内職・自営	95	0.432(no-F)		
	フルタイム	172	0.158(no-F)	1.604	0.085		無職	85	0.689(no-F)		
	パート	145	-0.698(F)			退 届	性				
	内職・自営	97	0.907(no-F)				男児	265	0.601(F)	1.287	0.105*
	無職	86	-0.163(F)				女児	232	-0.686(no-F)		
	性						子どもの年齢				
	男児	260	-0.543(F)	1.177	0.108*		2歳以下	44	-0.994(no-F)	1.263	0.057
	女児	223	0.633(no-F)				3・4歳	238	-0.059(no-F)		
後追い	母親の就業形態						5・6歳	215	0.269(F)		
	フルタイム	168	-0.361(F)	1.581	0.108*	外 出	子どもの年齢				
	パート	138	0.523(no-F)				2歳以下	44	2.211(no-F)	2.549	0.109*
	内職・自営	92	0.694(no-F)				3・4歳	239	-0.103(F)		
	無職	85	-0.887(F)				5・6歳	215	-0.338(F)		
	性					本 活動的遊び	性				
	男児	260	-0.543(F)	1.177	0.108*		男児	265	-0.631(F)	1.345	0.115*
	女児	223	0.633(no-F)				女児	234	0.714(no-F)		
	母親の就業形態						休日の父の接触量				
	フルタイム	168	-0.361(F)	1.581	0.108*		多い	198	-0.721(F)	1.181	0.092*
	パート	138	0.523(no-F)				少ない	301	0.469(no-F)		
泣く	子どもの年齢					母 母	母親の就業形態				
	2歳以下	44	-1.398(F)	1.658	0.053		フルタイム	172	-0.708(F)	2.165	0.145**
	3・4歳	238	0.021(no-F)				パート	145	0.074(no-F)		
	5・6歳	217	0.260(no-F)				内職・自営	96	1.457(no-F)		
	性						無職	86	-0.336(F)		
	男児	264	0.593(F)	1.266	0.085	その他の遊び	性				
	女児	233	-0.672(no-F)				男児	263	-0.565(F)	1.216	0.124**
	性						女児	228	0.651(no-F)		
	男児	265	-0.836(F)	1.786	0.203**		子どもの年齢				
	女児	150	0.950(no-F)				2歳以下	43	-1.576(F)	1.955	0.110*
	子どもの年齢						3・4歳	235	0.379(no-F)		
いらつく	2歳以下	44	-0.797(F)	1.379	0.104*		5・6歳	213	-0.100(F)		
	3・4歳	239	0.582(no-F)			母 母	母親の就業形態				
	5・6歳	215	-0.484(F)				フルタイム	167	-0.405(F)	1.269	0.103*
	母親の就業形態						パート	144	-0.351(F)		
	フルタイム	172	-0.021(F)	1.468	0.097*		内職・自営	95	0.864(no-F)		
	パート	144	0.478(no-F)				無職	85	0.424(no-F)		
	内職・自営	97	-0.991(F)				性				
	無職	85	0.364(no-F)				男児	263	-0.565(F)	1.216	0.124**
	性						女児	228	0.651(no-F)		
	子どもの年齢						子どもの年齢				

(F) : 父親を愛着対象とする父親の認知に影響するカテゴリー, (no-F) : 父親以外の人を愛着対象とする父親の認知に影響するカテゴリー. * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$.

表 5. 母親の認知に影響する要因

場面	要因・カテゴリー	対象数	ウェイト	レンジ	偏相関 係数	場面	要因・カテゴリー	対象数	ウェイト	レンジ	偏相関 係数
病 気	家族形態					要 求	子どもの年齢				
	拡大家族	312	-0.579(no-M)	1.320	0.100*		2歳以下	46	1.248(M)	1.685	0.092*
	核家族	244	0.741(M)				3・4歳	252	0.208(M)		
	母親の就業形態						5・6歳	251	-0.438(no-M)		
	フルタイム	193	-0.895(no-M)	1.519	0.090*		休日の母の接触量				
	パート	157	0.918(M)				多い	272	-0.658(no-M)	1.304	0.105*
	内職・自営	113	-0.459(no-M)				少ない	277	0.646(M)		
	専業主婦	93	-0.601(no-M)								
	子どもの年齢										
	2歳以下	47	-1.472(no-M)	2.156	0.069						
身 体 接 触	3・4歳	253	-0.416(no-M)								
	5・6歳	255	0.684(M)								
	母親の就業形態						平日の母の接触量				
	フルタイム	192	-0.502(no-M)	1.790	0.060		多い	239	-0.639(M)	1.127	0.087*
	パート	157	-0.130(no-M)				少ない	313	0.488(no-M)		
	内職・自営	114	-0.027(no-M)				休日の母の接触量				
	専業主婦	93	1.288(M)				多い	273	0.649(no-M)	1.284	0.101*
	性						少ない	279	-0.635(M)		
	男児	287	0.649(no-M)	1.388	0.390**		母親の就業形態				
	女児	252	-0.739(M)				フルタイム	190	-0.923(M)	2.102	0.142**
後 追 い	母親の就業形態						パート	157	-0.075(M)		
	フルタイム	186	-0.439(M)	1.040	0.078		内職・自営	113	1.179(no-M)		
	パート	156	0.276(no-M)				専業主婦	92	0.586(no-M)		
	内職・自営	107	-0.144(M)								
	専業主婦	90	0.601(no-M)								
	子どもの年齢										
	2歳以下	47	1.035(no-M)	1.534	0.065						
	3・4歳	254	0.310(no-M)								
	5・6歳	255	-0.500(M)								
	平日の母の接触量										
泣 く	多い	242	-0.766(M)	1.357	0.074						
	少ない	314	0.591(no-M)								
	母親の就業形態										
	フルタイム	192	-0.168(M)	1.091	0.050						
	パート	157	-0.129(M)								
	内職・自営	114	-0.236(M)								
	専業主婦	93	0.855(no-M)								
	性										
	男児	294	0.619(no-M)	1.304	0.105*						
	女児	254	-0.717(M)								
涙 ぐ	子どもの年齢										
	2歳以下	46	-1.876(M)								
	3・4歳	249	0.042(no-M)								
	5・6歳	253	0.300(no-M)								
	母親の就業形態										
	フルタイム	189	0.054(no-M)	1.428	0.067						
	パート	154	0.592(no-M)								
	内職・自営	113	-0.836(M)								
	専業主婦	92	-0.076(M)								
	休日の母の接触量										
外 出	多い	275	-0.713(no-M)	1.415	0.118**						
	少ない	279	0.702(M)								
	母親の就業形態										
	フルタイム	192	0.549(M)	1.483	0.100*						
	パート	157	-0.207(no-M)								
	内職・自営	113	0.116(M)								
	専業主婦	92	-0.934(no-M)								
	性										
	フルタイム	191	-0.610(M)	1.148	0.076						
	パート	157	0.538(no-M)								
眠 る	内職・自営	113	0.529(no-M)								
	専業主婦	91	-0.306(M)								
	子どもの年齢										
	2歳以下	47	-0.835(M)	1.205	0.038						
	3・4歳	254	0.371(no-M)								
	5・6歳	254	-0.216(M)								
	母親の就業形態										
	フルタイム	193	-0.204(M)	1.337	0.048						
	パート	157	0.678(no-M)								
	内職・自営	113	-0.659(M)								
風 呂	専業主婦	92	-0.081(M)								
	性										
	男児	296	-0.809(no-M)	1.741	0.166**						
	女児	257	0.931(M)								
	母親の就業形態										
	フルタイム	193	0.073(M)	1.283	0.088*						
	パート	154	-0.500(no-M)								
	内職・自営	113	0.783(M)								
	専業主婦	93	-0.276(no-M)								
	休日の母の接触量										
い ら つ く	多い	272	-0.590(no-M)	1.166	0.084*						
	少ない	279	0.575(M)								
	母親の就業形態										
	フルタイム	192	0.337(M)	1.799	0.113**						
	パート	156	-0.941(no-M)								
	内職・自営	112	0.858(M)								
	専業主婦	91	-0.154(no-M)								
	子どもの年齢										
	2歳以下	46	-0.739(M)								
	3・4歳	254	-0.475(M)								
活動的遊び	5・6歳	254	0.609(no-M)								
	母親の就業形態										
	フルタイム	190	-0.580(M)								
	パート	157	-0.030(M)								
	内職・自営	114	0.285(no-M)								
	専業主婦	93	0.886(no-M)								
	子どもの年齢										
	2歳以下	46	-0.739(M)								
	3・4歳	254	-0.475(M)								
	5・6歳	254	0.609(no-M)								
その他の遊び	母親の就業形態										
	フルタイム	191	0.279(M)								
	パート	157	0.566(M)								
	内職・自営	113	-0.377(no-M)								
その他の遊び	専業主婦	92	-1.081(no-M)								

(M) : 母親を愛着対象とする母親の認知に影響するカテゴリー, (no-M) : 母親以外の人を愛着対象とする母親の認知に影響するカテゴリー. * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$.

子どもの愛着対象に関する両親の認知

きな影響をもっている。これらの父親は、「泣く」「いらっしゃる」「その他の遊び」の場面で父親を子どもの愛着対象と考えており、「病気」「自慢」「退屈」「外出」の場面では父親以外の人を愛着対象と考える傾向がある。「休日の父親の接触量」については2場面で影響が認められ、子どもとの接触量が多い父親は、「病気」の場面で子どもは父親以外の人を愛着対象とし、「本を読んでもらう」場面では父親を愛着対象と認知する傾向がある。「母親の就業形態」は、8場面で父親の認知に大きな影響を与えており、母親の就業形態による影響をより鮮明にするために、母親の就業形態の違いが父親の認知に対称的に影響する場面をまとめてみる。まず、母親がフルタイムと専業母親の家庭では、「自慢」の場面でフルタイムの家庭の父親は父親を愛着対象であると考え、専業母親の家庭の父親は父親以外の人を愛着対象と考える傾向がある。「病気」「後追い」の場面では、専業母親の家庭の父親は父親を愛着対象と考え、内職・自営の家庭の父親は父親以外の人を愛着対象と考える傾向があり、「要求」の場面では両者への影響は逆になっている。「いらっしゃる」場面では、内職・自営の家庭の父親は父親を愛着対象と考え、パートの家庭の父親は父親以外の人を愛着対象であると考える傾向があり、「身体接触」の場面ではその影響は逆になっている。「活動的な遊び」と「その他の遊び」の場面では、フルタイムの家庭の父親は父親を愛着対象であると考え、内職・自営の家庭の父親は父親以外の人を愛着対象と考える傾向がある。これらの結果を父親の認知に影響を与える場面数で整理すると、専業母親の家庭の父親では4場面、内職・自営の家庭の父親では7場面、パートの家庭の父親では2場面、フルタイムの家庭の父親では3場面となり、内職・自営の家庭の父親は、他の家庭の父親よりも多くの場面で認知に影響を受けていることが明らかになる。次に、父親が子どもの愛着対象となる場面数を見ると、専業母親と内職・自営の家庭で2場面、パートの家庭で1場面、フルタイムの家庭で3場面となり、母親の就業形態の違いによる影響は顕著ではない。しかし、父親以外の人が愛着対象になる傾向がある場面数を見ると、フルタイムの家庭で0、パートの家庭で1場面、専業母親の家庭で2場面、内職・自営の家庭で5場面である。表3から父親以外の人とは母親であることが多いことから、内職・自営の家庭の父親は、他の家庭の父親よりも子どもの愛着対象を母親に集中させて認知する傾向が指摘される。「父親の年齢」「平日の接触量」

「家族形態」はいずれの場面でもレンジ値が小さく、偏相関係数も有意でないことから父親の認知に大きな影響を与えない要因と考えられる。

「子どもの性」は3場面で、女児は母親を、男児は母親以外の人を愛着対象と母親は認知する傾向があり、父親ほど顕著ではないが子どもの性による影響が見られる。「子どもの年齢」は6場面で影響があり、いずれの場面でも2歳以下の子どもをもつ母親の認知に大きな影響を与えている。これらの母親は、「身体接触」「泣く」場面で子どもは母親以外の人を愛着対象として、「眠る」「要求」「退屈」「活動的遊び」場面で母親を愛着対象と認知する傾向があり、母親の認知に与える影響は場面により異なる。「平日の母親の接触量」は2場面で影響があり、子どもとの接触量が多い母親は、子どもは母親を愛着対象とすると認知する傾向がある。また、「休日の母親の接触量」は4場面で影響が見られ、休日に子どもとの接触量が多い母親は、子どもは母親以外の人を愛着対象にしていると認知する傾向がある。平日の接触量と異なり休日の子どもとの接触量の多さが、子どもの愛着対象を拡大する可能性を示唆している。「母親の就業形態」は、「要求」以外の13場面で母親の認知に影響する。父親の場合と同様に就業形態の違いが対称的に影響する場面をまとめてみる。まず、フルタイムの母親と専業母親では「後追い」「外出」「活動的遊び」「身体接触」の場面で対称的に影響している。つまり、前3場面ではフルタイムの母親は、子どもは母親を愛着対象にすると考え、専業母親は母親以外の人を愛着対象にすると考える傾向があり、「身体接触」の場面では逆の影響が見られる。「本を読んでもらう」と「自慢」の場面では、フルタイムの母親は子どもの愛着対象は母親であると考え、内職・自営の母親は母親以外の人であると考える傾向が見られる。「病気」と「その他の遊び」の場面では、パートの母親は母親を子どもの愛着対象と考え、専業母親は母親以外の人と考える傾向がある。「風呂」「いらっしゃる」「退屈」「眠る」の場面では、内職・自営の母親は子どもの愛着対象は母親であると考え、パートの母親は母親以外の人と考える傾向がある。これらの結果を母親の認知に影響を与える場面数で整理すると、専業母親と内職・自営の母親は7場面、パートとフルタイムの母親は6場面であり、母親の就業形態の違いによる影響は顕著ではな

い。次に、母親が子どもの愛着対象となる場面数を見ると、内職・自営とフルタイムの母親が5場面、パートの母親が2場面、専業母親が1場面となり、内職・自営とフルタイムの母親は、他の就業形態の母親よりも子どもの愛着対象を母親に集中させて認知する傾向が見られる。「家族形態」については、「病気」の場面で核家族の母親は、子どもは母親を愛着対象にすると認知する傾向がある。「母親の年齢」については、母親の認知に与える顕著な影響は見られない。以上の結果から父親の認知には、子どもの性や年齢と妻の就業形態が大きな影響を与えていることが明らかになる。また、母親の認知には、子どもの年齢と母親の就業形態が大きな影響を与え、子どもの性と母親と子どもの接触量もかなりの影響を与える要因であることが明らかになる。これらの結果を踏まえ、子育ての共有化について次のことが指摘される。

接触に関しては一般に量より質と言われ、量は必ずしも重視されない傾向がある。しかし、子どもとの接触量の多さが、子どもが情愛的な関係を結ぶ対象の拡大に貢献する可能性が示唆されたことから、子育てに関わる時間を保障することの意味は大きいと言える。また、母親の就業形態は、父親と母親の認知に大きな影響を与える要因であり、内職と自営の家庭で愛着対象が母親に集中する傾向が見られた結果は、母親と子どもの関係が環境要因によって左右されることを示している。しかし、本結果からは、なぜ、内職と自営の家庭で子どもの愛着対象が母親に集中する傾向があるかについては明らかにされていない。この点に関してさらに詳細に検討することが、子育ての共有化を考えるために必要となろう。また、今回は対象数の関係から内職と自営の家庭を同一の就業形態として処理したが、この点についても検討する必要があろう。

4. 要 約

子どもの愛着対象に関する父親と母親の認知における実態と父親と母親の認知に影響する要因を明らかにするために本研究を行った。対象は、保育園児をもつ665組の父親と母親である。彼等を対象に14の異なる生活場面において、子どもが誰を愛着対象としているかについて調査し、以下の結果を得た。

- 1) 父親も母親も、子どもは母親を最も多く愛着対象にしていると認知している。
- 2) 父親も母親も子どもとの情愛的関係において、パートナーが考えるよりも自分は子どもから重要な存在であると思われていると考える傾向がある。
- 3) 父親の認知には、子どもの性や年齢と妻の就業形態が大きな影響を与えていることが明らかになる。
- 4) 母親の認知には、子どもの年齢と母親の就業形態が大きな影響を与え、また、子どもの性と母親と子どもの接触量もかなりの影響を与える原因であることが明らかになる。

調査にご協力いただいたご両親と保育園の関係の方々に衷心より感謝申し上げます。

引 用 文 献

- 1) 黒田実郎、大羽 薫、岡田洋子（訳）：母子関係の理論、岩崎学術出版、東京（1976）
- 2) シャスター、R.（矢野喜夫、矢野のり子訳）：母性のはたらき、サイエンス社、東京（1979）
- 3) 高橋恵子、波多野誼余夫：生涯発達の心理学、岩波書店、東京（1990）
- 4) 大瀧ミドリ、大家由利子：上越教育大学研究紀要、7-3、35~48（1988）
- 5) 大瀧ミドリ：農村生活研究、37(2), 15~19 (1993)